

本所工科 高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教 科： 国語 科 目： 現代の国語 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年

教科担当者：

使用教科書： （東京書籍『新編現代の国語』）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く 共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	A「現代の国語」を学ぶにあたって 【知識及び技能】「現代の国語」を学ぶ目的をよく理解し、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】「現代の国語」で、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その内容を適切に相手に伝える表現力を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】「現代の国語」を学ぶ目的を理解し、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につける。	1「現代の国語」の目標を学び、授業の取り組み方や、持ち物、評価の観点等について理解する。 2自己紹介とこの授業での目標を発表させる。	○			【知】 「現代の国語」を学ぶ目的をよく理解し、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。 【思】 「現代の国語」では、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その内容を適切に相手に伝える表現力を身につけている。 【態】 「現代の国語」を学ぶ目的を理解し、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につけている。	○	○	○	1
	B「こそそめスープ」 【知識及び技能】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使えるようになる。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで筆者の気持ちの変化や考えを理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめ、話し合おうとする。	1筆者の思いの変化に注意しながら、本文を通読する。（手引き1） 2第一段での筆者の「こそそめスープ」への思いを理解する。（手引き2） 3「こそそめスープのある世界」は、筆者にとってどのようなものであるかを理解する。（手引き3・4） 4筆者の考える「自分の作りあげた異世界」について理解する。（手引き5） 5第三段から、筆者の人間に対する考え方を読み取る。（手引き6） 6筆者と同じような勘違いをしていたことがないかを考えて書き出し、「思い込み」や「勘違い」の背景を探る。また、「本物のこそそめスープ」とはどのようなものかを話し合う。（言語活動1・2）	○	○	○	【知】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 【態】 ・進んで筆者の気持ちの変化や考えを理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめ、話し合おうとしている。	○	○	○	9

	C「漢字の読み書き」 【知識及び技能】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。	1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。 2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。 3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

	F「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」 【知識及び技能】 - 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 - 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 - 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く筆者の考える「想像力」を理解し、学習課題に沿って実際の生活を見直し、情報社会における自己の在り方について考えを深め、話し合うことができる。	1 本文を通読して、内容を把握する。（手引き 1） 2 「都市」の概念と現実・現状を理解する。（手引き 2） 3 「都市」において植物や鳥類・昆虫類等の生息についての実見を発表させる。かなり都市化された状況でも無生物とはならないことを理解する。（手引き 3） 4 筆者の考える「都市」とはどのようなものか理解する。（手引き 4） 5 「都市」とそこで生きる植物との関係をつくることの意義について理解する。（手引き 5） 6 本文の内容を踏まえて、実際の生活における動植物環境との関わりを考え、話し合う。（言語活動）（考えよう……メディアとの付き合い方、グラフや写真の読み取り方）	○	○	○	【知】 - 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 - 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 - 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 【思】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 【態】 粘り強く筆者の考える「想像力」を理解し、学習課題に沿って実際の生活を見直し、情報社会における自己の在り方について考えを深め、話し合おうとしている。	○	○	○	13
	G「漢字の読み書き」 【知識及び技能】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。	1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。 2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。 3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。	○			【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができている。 【態】 自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。	○		○	3
	定期考査						○	○		2
3 学 期	H「美しさの発見」 【知】 - 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 - 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 【思】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。 【主】 - 粘り強く取り上げられた具体例の展開に注目しながら、筆者の「美しさの発見」についての価値観や主張を理解し、今までの学習を生かして「美しさ」を知るために必要な感受性の養い方について自分の考えを深め、話し合うことができる。	1 取り上げられている具体例に注意しながら、本文を通読する。（手引き 1） 2 第一段から「発明」と「発見」に関わる語句や表現を抜き出し、ここでのそれぞれの意味を明らかにする。 3 コロンブスやキュリー夫人の「発見」と芭蕉やセザンヌの「発見」の違いを考え、それぞれの意味を明らかにする。（手引き 2） 4 少年龍之介を叱った先生が捉えている「美しさ」と少年龍之介が捉えている「美しさ」を読み取る。（手引き 3・4） 5 「同じ一つの心のはたらき」について考え、「『美しさ』を知る」ために必要なことを話し合う。（言語活動） 6 この文章で筆者は、「美しさの発見」とはどのようなものであると述べているか、考えを述べ合う。（手引き 5）	○	○	○	【知】 - 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 - 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 【主】 - 粘り強く取り上げられた具体例の展開に注目しながら、筆者の「美しさの発見」についての価値観や主張を理解し、今までの学習を生かして「美しさ」を知るために必要な感受性の養い方について自分の考えを深め、話し合おうとしている。	○	○	○	8

[illegible]

本所工科 高等学校 令和 8 年度（1 学年用） 教科 数学 科目 数学 I

教 科： 数学 科 目： 数学 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 A 組～ B 組

教科担当者：

使用教科書：（ 数 I 708 「高校数学 I」 実教出版 ）

教科 数学 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う

科目 数学 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、2次関数、三角比、集合と論証、及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	整式 【知識・技能】 ・単項式と多項式について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・同類項をまとめることや、かっこを外すことを利用して、整式の加法・減法を考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数の計算に加法・減法が利用できることに関心を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。	1 章 数と式 1 節 整式 1. 文字を含んだ式のきまり 2. 整式 3. 整式の加法・減法 整式の加法・減法について理解を深める。公式などを利用して式の展開や因数分解を効率よく計算できるようにする。	【知識・技能】 ・単項式と多項式について理解できる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・同類項をまとめることや、かっこを外すことを利用して、整式の加法・減法を考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数の計算に加法・減法が利用できることに関心を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	6
	整式 【知識・技能】 ・乗法公式の理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉える。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・乗法公式の理解を深めることができ、その計算に公式を利用しようとしている。	1 章 数と式 1 節 整式 4. 整式の乗法 整式の乗法について理解を深める。公式などを利用して式の展開や因数分解を効率よく計算できるようにする。	【知識・技能】 ・乗法公式の理解を深めることができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉える。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・乗法公式の理解を深めることができ、その計算に公式を利用しようとしている。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	展開 【知識・技能】 ・乗法公式の理解を深めることができる。 ・式の展開を、公式を利用して処理することができる。 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・式の展開に関心を持ち、目的に応じて式を変形しようとしている。 ・数の計算に乗法公式が利用できることに関心を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。	1 章 数と式 1 節 整式 5. 乗法公式による展開 式の見方を豊かにし、公式などを利用して式の展開や因数分解を効率よく計算できるようにする。	【知識・技能】 ・乗法公式の理解を深めることができる。 ・式の展開を、公式を利用して処理することができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉えることができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・式の展開に関心を持ち、目的に応じて式を変形しようとしている。 ・数の計算に乗法公式が利用できることに関心を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	9
	因数分解 【知識・技能】 ・因数分解の公式の理解を深めることができる。 ・因数分解を、公式を利用して処理することができる。 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉えることができる。 ・式の展開と因数分解の相互の関係がわかる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・因数分解に関心を持ち、目的に応じて式を変形しようとしている。 ・数の計算に因数分解の公式が利用できることに関心を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。	1 章 数と式 1 節 整式 6. 因数分解 式の見方を豊かにし、公式などを利用して式の展開や因数分解を効率よく計算できるようにする。	【知識・技能】 ・因数分解の公式の理解を深めることができる。 ・因数分解を、公式を利用して処理することができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉えることができる。 ・式の展開と因数分解の相互の関係がわかる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・因数分解に関心を持ち、目的に応じて式を変形しようとしている。 ・数の計算に因数分解の公式が利用できることに関心を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1

2 学 期	実数 【知識・理解】 ・数を実数まで拡張することの意義を理解している。 ・ $\sqrt{\quad}$ を含む式の四則計算ができる。 ・分母の有理化ができる。 ・いろいろな数を、自然数、整数、有理数、無理数で分類することができる。 【思考・判断・表現】 ・分数が、有限小数や循環小数で表される仕組みを考察することができる。 ・分母を有理化する意義がわかる。 ・循環小数を分数で表すことを考察できる。 ・数を拡張してきた過程や数の四則計算の可能性について考察できる。 【主体的に学習に取組む態度】 ・ $\sqrt{\quad}$ を含む式の計算に関心をもち、いろいろな計算に積極的に取り組もうとしている。 ・数の体系を実数まで拡張する意義に気付くとともに、数を拡張していく過程に関心をもち、調べようとしている。	2節 実数 1. 平方根とその計算 2. 実数 ・数を実数まで拡張することの意義を理解し、実数の概念や平方根を含む計算の基本的な考え方について理解する。 ・分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを理解する。 ・数を実数まで拡張することの意義を理解し、実数の概念や平方根を含む計算の基本的な考え方について理解する。 ・分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを理解する。	【知識・理解】 ・数を実数まで拡張することの意義を理解している。 ・ $\sqrt{\quad}$ を含む式の四則計算ができる。 ・分母の有理化ができる。 ・いろいろな数を、自然数、整数、有理数、無理数で分類することができる。 【発問評価・課題提出・定期考査】 【思考・判断・表現】 ・分数が、有限小数や循環小数で表される仕組みを考察することができる。 ・分母を有理化する意義がわかる。 ・循環小数を分数で表すことを考察できる。 ・数を拡張してきた過程や数の四則計算の可能性について考察できる。 【発問評価・課題提出・定期考査】 【主体的に学習に取組む態度】 ・ $\sqrt{\quad}$ を含む式の計算に関心をもち、いろいろな計算に積極的に取り組もうとしている。 ・数の体系を実数まで拡張する意義に気付くとともに、数を拡張していく過程に関心をもち、調べようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	15
	定期考査				○	○	
2 学 期	2次関数 【知識・理解】 ・2次関数のグラフの特徴を理解できる。 ・2次関数の式から、そのグラフをかくことができる。 ・ $y=ax^2+bx+c$ の式を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形(平方完成)することができる。 【思考・判断・表現】 ・ $y=ax^2+bx+c$ の式を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形(平方完成)したうえで、そのグラフをかくことができる。 ・2次関数の式とグラフとの関係について、平行移動の考えを用いるなどして多面的に考察できる。 ・コンピュータなどを使って、いろいろな2次関数のグラフをかき、その特徴を調べることができる。 【主体的に学習に取組む態度】 ・身の回りの現象で、関数の関係になっているものを調べようとしている。 ・2次関数のグラフについて、中学校で学んだ1次関数のグラフをふり返って考えようとしている。	2章 2次関数 1節 関数とグラフ 1. 1次関数とそのグラフ 2. 2次関数とそのグラフ ・関数の概念について理解し、2次関数のグラフがかけられるようにする。	【知識・理解】 ・2次関数のグラフの特徴を理解できる。 ・2次関数の式から、そのグラフをかくことができる。 ・ $y=ax^2+bx+c$ の式を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形(平方完成)することができる。 【発問評価・課題提出・定期考査】 【思考・判断・表現】 ・ $y=ax^2+bx+c$ の式を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形(平方完成)したうえで、そのグラフをかくことができる。 ・2次関数の式とグラフとの関係について、平行移動の考えを用いるなどして多面的に考察できる。 ・コンピュータなどを使って、いろいろな2次関数のグラフをかき、その特徴を調べることができる。 【発問評価・課題提出・定期考査】 【主体的に学習に取組む態度】 ・身の回りの現象で、関数の関係になっているものを調べようとしている。 ・2次関数のグラフについて、中学校で学んだ1次関数のグラフをふり返って考えようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	14
	定期考査				○	○	
3 学 期	2次関数 【知識・理解】 ・2次関数の最大値・最小値が理解できる。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解できる。 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・定義域に制限がある2次関数の最大値・最小値について考察できる。 ・日常の事象について、2次関数の最大値・最小値を利用して考察できる。 ・2次不等式を解く際に、簡単に因数分解できない2次式について、2次方程式の解の公式を利用して考察できる。 【主体的に学習に取組む態度】 ・具体的な事象の考察に2次関数の最大・最小を活用しようとしている。 ・1次関数のグラフと1次方程式との関係をふり返って2次関数のグラフと2次方程式との関係を考えようとしている。 ・ $D=b^2-4ac$ の符号を用いて、2次関数のグラフ・2次方程式・2次不等式の関係をふり返ってまとめようとしている。	2節 2次関数の値の変化 1. 2次関数の最大値・最小値 2. 2次関数のグラフと2次方程式 3. 2次関数のグラフと2次不等式 ・2次関数の値の変化についてグラフを用いて考察し、その最大値や最小値を求められるようにする。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解するとともに、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	【知識・理解】 ・2次関数の最大値・最小値が理解できる。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解できる。 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解できる。 【発問評価・課題提出・定期考査】 【思考・判断・表現】 ・定義域に制限がある2次関数の最大値・最小値について考察できる。 ・日常の事象について、2次関数の最大値・最小値を利用して考察できる。 ・2次不等式を解く際に、簡単に因数分解できない2次式について、2次方程式の解の公式を利用して考察できる。 【発問評価・課題提出・定期考査】 【主体的に学習に取組む態度】 ・具体的な事象の考察に2次関数の最大・最小を活用しようとしている。 ・1次関数のグラフと1次方程式との関係をふり返って2次関数のグラフと2次方程式との関係を考えようとしている。 ・ $D=b^2-4ac$ の符号を用いて、2次関数のグラフ・2次方程式・2次不等式の関係をふり返ってまとめようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	12
	定期考査				○	○	
							合計
							78

本所工科 高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅠ

教科： 外国語 科目： 英語コミュニケーションⅠ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ 組

教科担当者：

使用教科書：（ ALL Aboard English Communication I Revised 東京書籍 ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】聞く、話す、読む、書くことによる適切なコミュニケーションの技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】外国語で話し手や書き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合っている。

【学びに向かう力、人間性等】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図る。

科目 英語コミュニケーションⅠ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕	書					
1 学 期	【知識及び技能】身近な日常生活の中にある英語の単語を書き、発音を確認する。英語のアルファベットを使って単語を正確に書き、発音する。授業における典型的な場面でよく使われる英語表現を学習し、実際に使ってみる 【思考・判断・表現】教室で使う表現について、使い方や場面を正しく理解し、適切に使うように導く。 【学びに向かう力、人間性等】覚えた表現を積極的に使う。辞書を効率的に活用して、意思の伝達を試みる努力を養成する。	○Warm-Up 1 アルファベット ○Warm-Up 2 教室で使う表現 ○Warm-Up 3 辞書の使い方	○	○	○		○	[知識]アルファベットについて、その決まり事などを理解している。 [技能]アルファベットを正しく認識し、書くことができる技能を身につけている。 [知識]教室で使う表現について、その使い方や使う場面などを理解している。 [技能]教室で使う表現について、その使い方や使う場面などを正しく認識し、適切に使うことができる技能を身につけている。 [思]教室で使う表現について、その使い方や使う場面などを正しく認識し、適切に使っている。 [態] 教室で使う表現について、その使い方や使う場面などを正しく認識し、適切にしようとしている。 [知識]辞書の使い方/疑問詞について、その使い方や使う場面などを理解している。 [技能] 辞書の使い方/疑問詞について、その使い方や使う場面などを正しく認識し、適切に使うことができる技能を身につけている。	○	○	○	6
	【知識及び技能】辞書の使い方と役に立つ用語について学習する。また、疑問詞のある疑問文と答え方を学習する。辞書を使って単語を調べられるようにする。また、疑問詞のある疑問文と答え方を学習する。be動詞、一般動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。 【思考・判断・表現】自分の性格や特徴、日常の行動を整理して、相手が理解しやすいように努める。	○Pre-Lesson 1 My Name Is Ito Neko ○Pre-Lesson 2 I Like Junk Food! 一般動詞の用法について学習し、Be動詞との違いにしっかり理解させる。	○	○	○			[知識] be動詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 [技能] 自分の名前・性格・特徴などを、be動詞を用いて、相手に伝える技能を身につけている。 [思]自分の名前・性格・特徴などを整理して、相手が理解しやすいように伝えている。自分の日常の行動や食べ物の好みなどを整理して、相手が理解しやすいように伝えている。 [態] 自分の名前・性格・特徴などを整理して、相手が理解しやすいように伝えようとしている。自分の日常の行動や食べ物の好みなどを整理して、相手が理解しやすいように伝えようとしている。	○	○	○	8
	【知識及び技能】動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解する。また、世界の朝食について学んだ事柄や好きな食べ物について、自分の考えや好み、その理由などを整理・理解する。 【学びに向かう力、人間性等】世界の朝食についての知識を基に、好きな食べ物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめようとする態度を養う。	○Lesson 1 Breakfast around the World 世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。 【言語材料】過去形の用法を理解する。 【言語活動】好きな食べ物について、英語で述べることができる。	○	○	○	○	○	[知識]動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解している。また、世界の朝食について学んだ事柄や好きな食べ物について、自分の考えや好み、その理由などを整理・理解している。 [技能] 世界の朝食について学んだ事柄を用いて、好きな食べ物について、考えや好み、その理由を話して伝える技能を身につけている。また、過去にしたことについて動詞の過去形を用いて伝え合う技能を身につけている。 [思] 世界の朝食に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな食べ物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、自分の考えや好み、その理由を話したり書いたりして伝え合っている。 [態] 世界の朝食に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな食べ物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、自分の考えや好み、その理由を話したり書いたりして伝え合おうとしている。	○	○	○	13

[illegible]

年間授業計画

本所工科 高等学校 令和 8 年度（1 学年用） 教科 公民 科目 公共

教 科： 公民 科 目： 公共 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年

教科担当者：

使用教科書： 公共 新訂版（実教出版）

教科 公民 の目標：

- 【知識及び技能】

現代の諸問題を理解するための手掛かりとなる概念や理論について習得するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に獲得できるようになる。特に、現代の社会で生きる基礎となる憲法の成立や意義、その問題などについて理解を深める。
- 【思考力、判断力、表現力等】

現代社会の諸問題の理解のために、選択・判断の手掛かりとなる考え方や基本的な概念を駆使して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら自身の考えを表現し、他者と意見交換ができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】

よりよい社会の実現を視野に、民主的な国家・社会の担い手となるべく、現代の諸問題を主体的に学ぼうとしている。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
公共的な空間で生きていくための人間としての生き方や原理について過去の哲学者の思想を理解する。そのために基本となる日本国憲法の原理や経済活動の基本的な知識を身につける。また、現代の諸課題について理解する。	公共的な空間で生きていくための人間としての生き方、原理について、過去の哲学者の思想を踏まえつつ、自らの考えを表現できる。また、現代の諸課題について、具体的な問題の背景や構造を説明できる。	公共的な空間で生きていくための人間としての生き方、原理を獲得するために、主体的に学ぼうとしている。また、現代の諸課題が何かについて積極的に調べようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第一編 公共の扉 1. 社会をつくる私たち 2. 人間としてよく生きる 【知識及び技能】 ・青年期における心の在り方やフロイトの防衛機制、葛藤の種類、発達課題におけるアイデンティティの意味を理解させる。 ・伝統文化の意義や日本古来の信仰・祭祀にどのようなものがあるか理解させる。 ・正義に関する判断基準となる行為の道徳主義と帰結主義が何かについて理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・青年期とは人生においてどのような時期であるかについて自分なりの考えを表現できる。 ・古来からの日本の信仰・祭祀について説明できる。 ・トロツキ問題などについて、どのように判断するか、自らの考えを述べることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・上記の事柄について自ら積極的に考え、調べようと努力できる。	・指導事項 青年期の課題 伝統文化との関わり 正義論 ・教材 教科書とワーク	【知識・技能】 ・定期試験 ・授業での発言 【思考・判断・表現】 ・定期試験 ・授業での発言 【主体的に学習に取り組む態度】 ・レポートの提出 ・授業での取り組み状況（ワーク提出）	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	第一編 公共の扉 3. 他者とともに生きる 4. 民主社会の倫理 5. 民主国家における基本原理 【知識及び技能】 ・社会契約説について、これがどのような思想なのかを理解させる。 ・民主主義と国民主権の関係、また、直接民主制と間接民主制の違いを理解させる。 ・基本的人権の意義について理解させる。 ・自由権から社会権への歴史を理解させる。 ・世界の政治制度として議院内閣制と大統領制について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ホッブス・ロック・ルソーの社会契約論の違いを説明することができる。 ・民主主義に関わる法の支配や立憲主義の理念について説明できる。 ・基本的人権の意味や市民革命からのその歴史を説明できる。 ・議院内閣制と大統領制の違いをアメリカとイギリスを例にして説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・上記の事柄について自ら積極的に考え、調べようと努力できる。	・指導事項 社会契約説 直接民主政と間接民主政 基本的人権の確立 自由権から社会権 法の支配・立憲主義 議院内閣制と大統領制 ・教材 教科書とワーク	【知識・技能】 ・定期試験 ・授業での発言 【思考・判断・表現】 ・定期試験 ・授業での発言 【主体的に学習に取り組む態度】 ・レポートの提出 ・授業での取り組み状況（ワーク提出）	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第二編 社会の形成に参加する私たち 1. 日本国憲法の基本的性格 2 日本政治機構と政治参加. 【知識及び技能】 ・日本国憲法の成立過程を理解させる。 ・現代日本の選挙制度と現状の課題について理解させる。 ・政党の意味と役割について理解させる。 ・国会と内閣の意味と役割の違いについて理解させる。 ・国際連合の成立と役割について理解させる。 ・平和主義と日本の安全保障政策について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本国憲法の特徴を明治憲法と比較し得説明できる。 ・小選挙区制と比例代表制とメリットとデメリットについて説明することができる。 ・政治資金規正法の意義について説明することができる。 ・国会の現状の問題点や議院内閣制について説明できる。 ・国家の3要素や排他的経済水域の意義について説明できる。 ・国際連合の問題点と限界について説明できる。 ・日本国憲法9条と安全保障との関係について説明できる。	・指導事項 選挙制度 政党政治 国会と内閣 日本国憲法の成立 自由・平等・社会権 平和主義と日本の安全保障 公正な裁判 ・教材 教科書とワーク	【知識・技能】 ・定期試験 ・授業での発言 【思考・判断・表現】 ・定期試験 ・授業での発言 【主体的に学習に取り組む態度】 ・レポートの提出 ・授業での取り組み状況（ワーク提出）	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	第二編 社会の形成に参加する私たち 3. 現代の経済社会 4. 日本経済の特質と国民生活 【知識及び技能】 ・市場経済のしくみを理解させる。 ・市場価格の決定について理解させる。 ・国民所得と経済発展の関係を理解させる。 ・金融理論について理解させる。 ・日本の財政制度と税のしくみを理解させる。 ・国際収支と国際経済の特徴を理解させる。 ・現代世界で起こっている諸問題について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・資本主義経済と社会主義経済の違いを理解させる。 ・需要曲線・供給曲線の意味や官益について説明できる。 ・ケインズの経済思想について理解させる。 ・中央銀行と金融政策の意義について説明できる。 ・税の役割について説明できる。	・指導事項 戦後の国際社会の歴史の変容 労働者の権利と課題 戦後日本経済史 企業の役割と責任 ・教材 教科書とワーク	【知識・技能】 ・定期試験 ・授業での発言 【思考・判断・表現】 ・定期試験 ・授業での発言 【主体的に学習に取り組む態度】 ・レポートの提出 ・授業での取り組み状況（ワーク提出）				14
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第二編 社会に参画する私たち 5. 国際政治の動向と課題 6. 国際経済の動向と課題 【知識及び技能】 ・冷戦期から現代のグローバル社会に至るまでの国際社会の変容過程を理解させる。 ・移民や難民とは何かについて理解させる。 ・労働者の権利について、労働三権や労働基準法の意義を理解させる。 ・戦後の日本経済の動向を理解させる。 ・企業の基本的な活動とその社会的役割について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・冷戦の構造を説明できる。 ・移民・難民と現代的諸課題との関係を説明できる。 ・現代日本の労働問題について、何が問題か説明できる。 ・戦後日本経済史を現代t日本の経済的な問題と関連付けて理解できている。	・指導事項 戦後の国際社会の歴史の変容 移民・難民問題 国政政治の歴史 国際収支と国際経済 ・教材 教科書とワーク	【知識・技能】 ・定期試験 ・授業での発言 【思考・判断・表現】 ・定期試験 ・授業での発言 【主体的に学習に取り組む態度】 ・レポートの提出 ・授業での取り組み状況（ワーク提出）	○	○	○	19
	定期考査			○	○		78

本所工科 高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年

教科担当者：

使用教科書：（ 現代高等保健体育(大修館書店) ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を継続できるようにする。また、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともにそれらの技能を身につけられるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するために、自己の課題を発見し合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲を育む。また、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ体動を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて、言ったり、書きだすことができるようにする。 ・サービスでは、ボールをねらった場所に打つことができるようにする。 ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけることができるようにする。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようすることができるようにする。	・オリエンテーション ・スポーツテスト ・体づくり運動 ・バドミントン ・体育理論	【知識・技能】 ・心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて言ったり、書きだすことができるようにする。 ・サービスでは、ボールをねらった場所に打つことができるようにする。 ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけることができるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようすることができるようにする。	○	○	○	31
2 学 期	・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称がありそれらを身に付けるためのポイントがあることを理解できるようにする。 ・ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができるようにする。 ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けることができるようにする。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようすることができるようにする。	・バスケットボール ・ソフトボール ・体育理論	【知識・技能】 ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。 【思考・判断・表現】 ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。	○	○	○	31
3 学 期	・技術と関連させた運動や練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることを理解できるようにする。 ・自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができるようにする。 ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けることができるようにする。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようすることができるようにする。	・陸上競技 ・体育理論	【知識・技能】 ・体力を高めるための運動や技術を理解しできることについて、言ったり書き出したりしている。 ・自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。 【思考・判断・表現】 ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。	○	○	○	16
							合計
							78

本所工科 高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教 科： 保健体育 科 目： 保健 単位数： 1 単位

対象学年組：第 1 学年

教科担当者：

使用教科書：（ 現代高等保健体育(大修館書店) ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けられるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力あり生活を営む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・国民の健康課題について我が国の死亡率・受療率・平均寿命・健康寿命等、各種の指標や疾病構造の変化を通して理解できるようにする。 ・喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり、心身の健康を損ねることを理解できるようにする。	・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復 ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 ・喫煙と健康	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・現代社会と健康における事象や情報などについて、健康にかかわる原則や概念をもとに整理したり、個人及び、社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析しリスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組及び社会的な対策を整理することができる。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	・麻薬・覚せい剤・大麻等、薬物の乱用は心身の健康、社会の安全などに対して申告な影響を及ぼすことから決しておこなってはならないことを理解できるようにする。 ・適切な意思決定や行動選択には個人の知識・価値観・心理状態・および人間関係などを含む社会環境が関連していることを理解できるようにする。	・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復 ・現在の感染症 ・性感染症・エイズとその予防 ・健康に関する意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取り組みを個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現代社会と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明することができる。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	・適切な応急手当は傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できるようにする。 ・日常生活で起こる傷害や熱中症などの疾病の際には、それに適した体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを実習等を通して理解し、応急手当ができるようになる。	・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・交通における安全 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・安全な社会生活について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明することができる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
							合計 39

[illegible]

[illegible]

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	基本作業編 10章 直流・交流回路の実験 ○直流・交流回路の基礎知識 1 オームの法則 2 直流の電流・電圧の測定 3 抵抗の接続と合成抵抗	・計測器の扱いについて、正確な値を測定する方法や、取り扱いの注意について学ばせる。 ・電子部品や計測器の接続方法を理解させ、安全を意識した活用方法を学ばせる。 ・オームの法則を学び、電気の性質を理解させる。	【知】電気回路の結線作業の基本操作について正しい知識を持ち、電子機器や電子部品、計測器の活用法を理解している。 【思】電気回路の結線作業の基本操作について、適切に思考・判断し、その製作法についての確に表現できる技量を身につけている。 【態】電気回路の結線作業の基本操作について興味・関心を持ち、結線作業に意欲的に取り組む態度を身につけている。	○	○	○	60
2 学 期	基本作業編 12章 プリント配線とはんだ付けの方法 ○プリント配線の基礎知識 1 プリント基板の製作（1） ○はんだ付けの基礎知識 1 プリント基板の製作（2）	・プリント基板の製作を通して、電子に関する知識や、電子回路の利用方法、応用について学ばせる。 ・はんだごてを使用することで、電子部品の安全な製作方法を学び、製作工程を科学的に理解させる。	【知】プリント基板の製作について正しい知識を持ち、電子機器や電子部品の構造を理解できている。 【思】プリント基板を作る際に使用するソフトウェアやはんだごての安全な操作方法を思考・判断し、その製作法についての確に表現できる技量を身に付けている。 【態】プリント基板の製作について興味・関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を身に付けている。	○	○	○	68
3 学 期	基本作業編 13章 コンピュータ制御 1 コンピュータ制御の基礎知識 導入編 6章 発表のしかた 1 プレゼンテーション形式による発表	・PICプログラミングを通して、電子機器を制御する方法を学ばせる。 ・学習してきた内容を再確認させ、プレゼンテーションの発表を通して自身の成果を表現させる。	【知】PICプログラミングの正しい知識を持ち、電子機器や電子部品の制御に関する理解ができている。 【思】PICプログラミングとプレゼンテーション発表を通して、電子機器や電子部品の制御方法を思考・判断し、その方法についての確に表現できる技量を身に付けている。 【態】PICプログラミングとプレゼンテーション発表について興味・関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を身に付けている。	○	○	○	28
							合計
							156

工業 科目 工業情報数理

单位数： 2 单位

使用教科書：（工業719 精選工業情報数理（実教出版）

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
工業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価標準	知	思	態	配当 時数
1 学期	○工業情報数理を学ぶにあたって ○産業社会と情報技術 1 情報と生活 2 情報化社会の光と影 3 コンピュータの特徴 4 情報化の進展と産業社会 5 情報化社会のモラルと管理 6 情報セキュリティの管理 7 問題の発見・解決と情報技術の活用	・情報やデータの意味、情報化社会の利点や問題点について理解させる。 ・情報・情報処理・データ・ICTなどの用語の意味を正確に理解させる。 ・情報化社会の発展が産業社会や個人の生活に及ぼす影響について、その光と影の部分を正しく理解させ、工業技術者として、また社会人として、望ましい情報の活用ができるようにする。	【知】・情報を適切に収集・分析・活用、デザインして表現する知識と技能を身に付けている。 ・情報機器やSNSなどの利点や欠点、危険性、正しい取り扱いについて理解し、自分たちがすべきことについてまとめることができる。 【思】・情報技術の進展にもない産業社会におよぼす影響について、光と影の部分に関して思考・判断でき、自分の考えを表現できる。 ・情報機器やSNSなどのサービスを取り扱ううえでの社会人としてのルール、モラルやマナーなどについて、具体的に考え、お互いの意見を述べたり発表したりできる。 【態】・情報化社会について、技術的な側面に加えて、人的な側面にも関心をもち、工業技術者として、また社会人として、望ましい情報の活用をしようとする意欲的に学習に取り組む、協働して学ぼうとしている。	○	○	○	10
	○コンピュータの基本操作とソフトウェア 1 コンピュータの基本操作 2 ソフトウェアの基礎 ○プログラミングの基礎 1 プログラムの基礎 2 プログラムの作り方 3 流れ図とアルゴリズム	・どのようなアプリケーションソフトウェアがあるか理解させ、実際に使えるようにする。 ・データの出力、データの入力、関数の計算について理解させる。 ・選択処理について理解させる。	【知】・FA・OAなどの用語について理解している。 【思】・実際に簡単な計算処理をして、コンピュータと人間の処理を比較して思考・判断でき、意見を述べたり発表したりできる。 【態】・コンピュータの特徴とコンピュータを用いることの意味に関心をもち、意欲的に学習に取り組む、協働して学ぼうとしている。 【知】・機械語、アセンブラ言語、高水準言語について理解している。 【思】・インプットとコンパイルの違いを考察し発表できる。 【態】・人の会話に言語が必要であるように、コンピュータへの命令に言語が必要であることに興味をもち、意欲的に学習できる。	○	○	○	10
	○BASICによるプログラミング 1 BASICの特徴 2 四則計算のプログラム 3 選択処理 4 繰り返し処理 5 配列処理 6 外部関数	・BASIC言語について正しく理解させる ・BASIC言語での四則計算プログラム選択処理、繰り返し処理、配列処理、外部関数について正しく理解させ、実際に使えるようにする。	【知】・BASIC言語の概要について理解している。 ・BASIC言語に必要な要素について理解している。 ・BASIC言語に必要な電子回路について理解している。 ・BASIC言語に必要なプログラムについて理解している。 ・BASIC言語の特徴を理解して、機器を操作する技能を習得している。 【思】・BASIC言語によってどのような制御を行っているか考察し発表できる。 ・機器に適したBASIC言語での制御の方法を判断し説明できる。 【態】・身のまわりのBASIC言語の制御や、具体的な方法に関心をもち、意欲的に学習に取り組む、協働して学ぼうとしている。	○	○	○	12
2 学期	○Cによるプログラミング 1 Cの特徴 2 四則計算のプログラム 3 選択処理 4 繰り返し処理 5 配列処理 6 関数 ○ハードウェア 1 データの表し方 2 論理回路の基礎 3 処理装置の構成と動作	・C言語について正しく理解させる ・C言語での四則計算プログラム選択処理、繰り返し処理、配列処理、外部関数について正しく理解させ、実際に使えるようにする。 ・コンピュータで用いるデータの表し方について理解させる。 ・文字・音・静止画像・動画像のデジタル化を理解させる。 ・2値で演算や制御を行う論理回路の基本について理解させる。	【知】・C言語の概要について理解している。 ・C言語に必要な要素について理解している。 ・C言語に必要な電子回路について理解している。 ・C言語に必要なプログラムについて理解している。 ・C言語の特徴を理解して、機器を操作する技能を習得している。 【思】・C言語によってどのような制御を行っているか考察し発表できる。 ・機器に適したC言語での制御の方法を判断し説明できる。 【態】・身のまわりのC言語の制御や、具体的な方法に関心をもち、意欲的に学習に取り組む、協働して学ぼうとしている。 【知】・コンピュータ制御の概要について理解している。 ・コンピュータ制御に必要な要素について理解している。 ・コンピュータ制御に必要な電子回路について理解している。 ・コンピュータ制御に必要なプログラムについて理解している。 ・ライントーサなどに利用されているコンピュータ制御の特徴を理解して、機器を操作する技能を習得している。 【思】・身のまわりの機器がコンピュータ制御されていることを知り、どのような制御を行っているか考察し発表できる。 ・身のまわりの機器に組み込まれているコンピュータを指し示す特徴を考察し発表できる。 ・機器に適したコンピュータ制御の方法を判断し説明できる。 【態】・身のまわりのコンピュータ制御や、具体的な方法に関心をもち、意欲的に学習に取り組む、協働して学ぼうとしている。	○	○	○	12
	○情報技術の活用と問題の発見・解決 1 マルチメディア 2 プレゼンテーション 3 文書の電子化 4 問題の発見・解決	・文字・音・静止画像・動画像のデジタル化を理解させる。 ・プレゼンテーション用のアプリケーションソフトウェアについて理解させ、実際に使えるようにする。 ・文章の電子化の方法について正しく理解させ、実際に使えるようにする。 ・情報技術の活用の仕方や、問題点、危険性などを正しく理解させ、自身で対応出来る能力を身に付ける。	【知】・情報を適切に収集・分析・活用、デザインして表現する知識と技能を身に付けている。 ・情報機器やSNSなどの利点や欠点、危険性、正しい取り扱いについて理解し、自分たちがすべきことについてまとめることができる。 【思】・情報技術の進展にもない産業社会におよぼす影響について、光と影の部分に関して思考・判断でき、自分の考えを表現できる。 ・情報機器やSNSなどのサービスを取り扱ううえでの社会人としてのルール、モラルやマナーなどについて、具体的に考え、お互いの意見を述べたり発表したりできる。 【態】・情報化社会について、技術的な側面に加えて、人的な側面にも関心をもち、工業技術者として、また社会人として、望ましい情報の活用をしようとする意欲的に学習に取り組む、協働して学ぼうとしている。	○	○	○	12
	合計						